



あの人をおぢばに導くのは私だ

# 布教の家

立教189年度 入寮案内





# ひながたを実践しよう



# 喜びを実感しよう

全国15力所の布教の家。

寮生の年齢や立場はさまざまです。親からの信仰を受け継ぎ代を重ねた人もいれば、自ら信仰の道に入った初代の人もいます。

布教経験に関しては、ある程度慣れた人もいますが、ほとんど経験がない人も多くいます。

これまで経験のない人も、布教の家での布教専従の1年間を通して、親神様のお働きを実感していくのです。布教の家は、むしろ布教経験のない人や布教に自信のない人にこそ入寮を志してもらいたい所なのです。「3カ月も歩けば、入寮前の自分がどれだけ頭でつかちだったか思い知らされる」と多くの寮生が話します。

雨の日も風の日も布教に明け暮れし、正面から親神様と向き合ってこそ、尊い喜びを味わうことができるのです。

心の精神の理によって働かそう。精神一つの理によって、一人万人に向かう。神は心に乗りにて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りにて働く程に。

(明治三十一年十月二日)



# 目 次

|                            |              |
|----------------------------|--------------|
| ●ひながたを实践しよう 喜びを実感しよう ..... | 1            |
| ●全国の布教寮 .....              | 3            |
| ●布教の家寮生の声 .....            | 4            |
| ●布教の家とは .....              | 6            |
| ●さあ！ 布教の家へ<br>布教の家の一年間     |              |
| ①「入寮研修会」でぢばの理を頂いて .....    | 8            |
| ②布教の家の一日 .....             | 9            |
| ③布教経験豊かな 育成員の指導 .....      | 10           |
| ④団参を通して さらなる感謝と自覚 .....    | 11           |
| ⑤おぢばを目指し さらなる成人を .....     | 12           |
| ⑥布教の家を土台に 新たな布教活動へ .....   | 13           |
| ●布教の家寮生 生活規則 .....         | 14           |
| ●各寮の紹介                     |              |
| 北海道 ..... 15               | 大 阪 ..... 22 |
| 青 森 ..... 16               | 和歌山 ..... 23 |
| 東 京 ..... 17               | 兵 庫 ..... 24 |
| 埼 玉 ..... 18               | 岡 山 ..... 25 |
| 千 葉 ..... 19               | 広 島 ..... 26 |
| 愛 知 ..... 20               | 愛 媛 ..... 27 |
| 石 川 ..... 21               | 福 岡 ..... 28 |
| ※立教189年度は、徳島寮の入寮生募集はありません。 |              |
| ●布教の家 所在地一覧 .....          | 29           |
| ●立教189年度 布教の家 入寮要項 .....   | 30           |

# 全国の布教寮

男子寮12カ所・女子寮3カ所



※ ( ) 内は定員数

## おちばのありがたさを実感 その経験を糧ににをいがけに励む

先日、一緒に帰参する予定だった方が直前に体調不良となり帰参できなくなりました。しかし幸いにも仲間の寮生がお連れする方がいて、私は運転手として共に帰参できることになりました。一人の方をお連れすることの難しさと、自分の真実の足りなさを痛感しましたが、「おちば帰りできることをしっかり喜ばせていただく。そしてお帰りくださる方に喜んでいただく」と気持ちを切り替えました。

二人を基礎講座の会場へ送った後、私はひとり本部神殿を参拝しました。教祖殿で教祖の御前に座った途端、涙が溢れて止まりませんでした。帰参できた喜び、人をお連れできなかった申し訳なさ、いろいろな感情が胸にこみ上げてきました。でもそんな私を教祖が温かく包み込んでくださっているように感じたのです。

おちばはありがたい場所だとあらためて実感しました。今回の経験を糧に、毎日コツコツにをいがけ・おたすけに励みたいと思います。 （愛知寮 男性）



## 神様にもたれていない自分に気づき 掛けていただく親心への感謝を実感

入寮して間もなく、咳が出始めました。おさづけを取り次いでいただいても御供<sup>ごく</sup>を頂いても治まらず、身上さとしの本などを読んで心遣いを改めるよう頑張りましたが、変化のないまま一カ月が経ちました。私は不足が積もってきて、先生にも相談せず、仲間の寮生におさづけをお願いすることもしなくなりました。咳はどんどんひどくなり、不足もピークになったある日、私は日記をつけていて「ありがたいこともあるのに私は全然感謝していない」と気づき、その日からありがたいことのリストを日記に書くことにしました。すると翌日、身体の調子が良くなった気がして、私は早速育成員の先生におさづけをお願いし、その日から毎日仲間の寮生におさづけを取り次いでもらうようにしました。そして咳はどんどん治まってきました。

今回のことで私は、おさづけを信じ切れず神様にもたれていなかった自分に気づき深く反省するとともに、そんな未熟な私にも親心を掛けてくださる親神様、教祖、そして周囲の方々に心の底から感謝しました。（千葉寮 女性）





# 布教の家とは

決して練習所でも研修所でもありません。

ひたすらにをいがけ・おたすけを実践する場です。

## ●全国に15カ所の布教の家

布教の家は、布教を志す者が実際にをいがけ・おたすけに明け暮れる場です。ただ歩くだけではなく、そこに喜びの心を持てるよう、歩きながら自

らの信仰を見つめ直す場でもあります。

現在、布教の家は北海道から九州まで、全国に男子寮12カ所、女子寮3カ所が設置されています。

## ●まず布教師がいて 布教の家ができた

布教の家の設立は、今からおよそ70年ほど前にさかのぼります。

当時、戦後の厳しい生活難の中、お道の布教師は野宿のような状況で布教をしていました。そんな状況の下、教区の好意により、単独布教師に教務支庁舎の一部が提供され、布教師は定住

地をご守護いただくまでそこを拠点として布教に歩いたのです。それが布教の家の始まりです。

つまり、布教の家を設立してから布教師を育てたのではなく、まず布教師がいて、布教の家ができたのです。

## ●まさに布教実践の場

このような成り立ちからも分かるように、布教の家は決して布教の練習所や研修所ではありません。ひたすら、をいがけ・おたすけを実践する場です。育ててもらう所ではなく、自らが布教師として育つ所なのです。

たすけ一条の歩みこそがようぼくの

使命。教祖のひながたを万分の一でもたどらせていただこう。その決意と情熱を胸に1年間懸命に、をいがけ・おたすけに励む。それが布教の家です。ただ、身構える必要はありません。教祖のひながたは誰もが通ることのできる万人のひながたなのですから。

## ●経験豊かな指導者と良き仲間の中で

毎日の布教道中は、晴天の日ばかりではありません。そんなとき支えとなってくれるのが、寝食を共にする仲間です。また仲間は良きライバルでもあり、互いに切磋琢磨する砥石<sup>といし</sup>でもあります。

また各寮には、寮長はじめ育成員がいます。教区管内の布教経験豊かな方々がその任に当たり、さまざまなア

ドバイスをしてくださいます。

各寮には、長年続いてきた寮のカラーがあります。もちろん地域的な特色もありますが、どの寮も、教祖のひながたを求めて素直に神恩感謝の心をかけ・おたすけを実践するために、寮生たちと正面から向き合っており取り組んでいます。

## ●生涯の宝として

布教の家での1年間は、それぞれの教会の御用や私事から離れて、完全に布教に没頭する毎日を送ります。だからこそ素直に真つすぐひながたを通る基盤がつくれ、生涯の布教生活の心を定める貴重な仕切りの1年となるの

です。この1年間に味わうさまざまな経験は、かけがえのない心の宝になるでしょう。

寮生の中には、卒寮後も現地に残り、布教を続ける人も少なくありません。

## ●思い切って布教に出よう

私たちようぼくは、定命を25年縮めて現身をお隠しになられてまで世界たすけをお急き込みくださった教祖の思召に、何としてもお応えしなければなりません。私たちが歩む道は、たすけ一条の道あるのみです。そのために教祖はひながたをお示しになり、道の先頭に立ってお導きくださっています。

しかしながら、頭では分かっている、日常の生活に追われてなかなか思い切って布教に徹することができない自分がいませんか。

だからこそ、思い切って布教に出ましょう。この1年を仕切って、まずは布教の家に飛び込んでください。

# さあ！ 布教の家へ

## 「入寮研修会」で ちばの理を頂いて

1

布教の家に入寮する前に、おちばで「入寮面接会」や「入寮研修会」を受けます。

「入寮面接会」では、各寮の寮長はじめ育成員が出席し、入寮希望者本人とその保護者に対して面接が行われます。「これから布教一筋に通るのだ」という意志の確認と入寮までの心づくりをします。

入寮が決定し、各布教の家へ出発する直前には「入寮研修会」が行われます。布教経験豊かな先輩のお話を聞いて単独布教師としての基本的な心構えを学び、またこれから共に歩く仲間である寮生同士での話し合い

を通して、あらためて布教に出发する決意を固めます。

ちばの理を頂き、その理をしっかり胸に治めた寮生は、決意も新たに、その足でそれぞれの布教地へと向かいます。



## 2

# 布教の家の一日

布教の家の一日は、朝の神殿掃除から始まります。朝づとめ前の早朝から起床し、全員で神殿や教務支庁の清掃ひのきしんをします。

朝食はパンのミミだけの目もあります。これが一日の活力源です。朝食を終え、定刻になると、にをいがけに出発です。

ほとんどの寮生にとって、そこは見知らぬ土地です。しかし地図を片手に戸別訪問に回るうちに、1週間もすれば、おぼろげながら地理もつかみ、1カ月もすれば、布教のやり方が自然と身に付いてきます。

午後4時ごろ、足を棒にして帰寮。神殿掃除などひのきしんを終えると、当番の寮生が心を込めて腕をふるった楽しい夕食です（昼食抜きで、朝夕は寮生の自炊）。

夕づとめ後、その日の出来事を仲間と共に語り合い励まし合って、明日への活力を養います。その他の日課としては、全員そろってのお願いづとめや神名流し、駅前の清掃ひのきしんなども行います。また、毎月定例日には、教区の担当の先生や布教の家OBと共に寮祭をつとめます。



▶心を込めて清掃ひのきしん

# さあ！ 布教の家へ

## ③

### 布教経験豊かな 育成員の指導

入寮後、必死に戸別訪問に回っても断られてばかり。おさづけの取り次ぎはおろか、お話を聞いていただけない。そんな日が続くと、どうすればよいのか分からなくなり、次第に落ち込む日も出てきます。そのようなとき、寮生の後押しをしてくださるのが、寮長はじめ育成員の先生方です。

布教の家では、その地で長年布教にいらした経験豊かな方々が、寮長・育成員・本部派遣委員として寮生を常時指導してくださいます（本部派遣委員は一部の教区のみ）。寮生を叱咤激励し、時には寮生と共に歩き、身をもって布教師としての在り方を示してくださいます。

「初めの3カ月が大切。とにかく歩くこと。戸別訪問以外に道はない」

との先生の言葉を受け、最初の3カ月、寮生はがむしゃらに歩き回ります。すると不思議にも、一軒、また一軒とお話を聞いてくださる所ができてくるのです。

このころになると、深夜の神殿で十二下りのお願いとめをしたり、断食をしたりと、それぞれで心定めや理づくりをする寮生も出てきます。こうした動きが仲間同士の良い刺激となり、布教の家は、たすけ一条に邁進する布教師の拠点にふさわしい雰囲気へと変わり、まさにおたすけの現場となっていくのです。

# 4

## 団参を通して さらなる感謝と自覚

寮生は原則として、入寮中の1年間は、別席者やおちば帰りをしてくださる方をお与えいただかない限り、おちば帰りはできません。大教会や所属教会への参拝、各種行事への参加も同様です。まさに布教一筋の日々です。それ故に、一人の方をお連れする苦勞、それが成ったときの喜びを味わうのです。

また、個々に人をお連れして帰参するほか、寮で団参を計画することもあります。個人の帰参と違って、団参は事前に期日や内容を決め、寮生全員で役割分担し、帰参人数を心定めて、お誘いに回ります。一日中をいがけやお誘いに奔走し、帰寮してからも、寮生たちは「どうすれば帰参者の方々に喜んでいただける団参にできるか」と、時には夜遅くまで話し合いを重ねます。そうして寮生たちは互

いの絆を深め、力を合わせるこのの大切さや勇ませ合う喜びを実感していきます。

またこうした団参は、生活の慣れからくる気の緩みや不安を吹き飛ばす、この上ない刺激となつて、大きな喜びと感謝、やればできるのだという自信につながります。同時に、おちばに人をお連れすることが自分の使命なのだという自覚も出てくるのです。



▲喜びの「こどもおちばがえり」団参



# さあ！ 布教の家へ

## 5

## おぢばを目指し さらなる成人を

夏も終わりを告げるころ、いよいよ本格的なにをいかけ・おたすけに入っていきます。通い先へおさづけを取り次ぎに向かう人、とにかくおぢばへ帰っていただくとお誘いに回る人、それぞれが自分のにをいげスタイルを身に付けていきます。

婦参者をお連れしておぢばに帰ってきた寮生は、婦参報告のため布教一課を訪れます。その寮生の顔には、さすがしさの中にも布教師としての精悍さが表れ、入寮時との違いがはっきりと見てとれます。

寮生の活躍は、各寮から毎週布教一課へ送られてくる「週間報告書」からも分かります。報告書には寮の現況やおさづけの取り次ぎ回数などが記されており、それは『布教の家週報録』

として編集され、毎月、寮生・保護者・各寮担当者などに配布されます。

ほかにも、寮生からは「おぢばへのお願い」も送られてきます。所定の用紙に、寮生がおたすけにかかっている人の名前やお願いの内容などが記入されています。これをもとに、布教一課長が各地の寮生に代わり、おぢば・かんろだいにお願い申し上げます。

また9月には、おぢばで「寮生保護者会」が行われます。寮長はじめ育成員の先生方と寮生の保護者が、寮生の現状や、保護者の陰の理づくりの大切さについて話し合い、寮生のみならず保護者も共に苦勞しようと誓い合います。



## 布教の家を土台に 新たな布教活動へ

寮生に休みはありません。10月には「秋季大祭」、年明けには「お節会」。また各寮で期に応じて自主的に団参を組めます。そのほかにも「陽気ぐらし講座」などを独自で計画する寮もあります。心定めの人達達成に向け、常に目標を持って街中を東奔西走するのです。

そうしたにをいがけ・おたすけの中に身を置くうちに、長いと思われた1年も、あっという間に過ぎていきます。

3月の卒寮時には、布教の家の最後の行事として、おちばに全寮生が集まって「卒寮の集い」が行われます。この集いにおいて、布教の家での尊い1年を土台として「新たな布教活動に邁進しよう」と、新たな門出を誓い合います。

実際に、卒寮後もそのまま単独布教師として現地に残る人が

毎年います。そのほか、自教会などを拠点として布教に歩く人も多数います。卒寮はゴールではありません。それぞれが生涯一布教師としての新たな一歩を踏み出すスタートなのです。

布教の家での生活は、わずか1年間です。しかし、布教実践の中に身を置くその1年間で本当に多くのことを学びます。親の思い。日々頂く御守護。先人の苦勞。自らのいんねん。この1年間で培ったことはお道を通じていく上での生涯の宝となるでしょう。

布教を志す人は、奮って布教の家へお越しください。またそのような人を、ぜひ送り出してください。教人であれば、年齢や性別は問いません。一人でも多くの方の入寮を心よりお待ちしております。

# 生活規則 生寮の家教布

寮生活は、常に教祖の道具衆たる自覚の上に、あらゆる苦勞を乗り越えて、ようばくの生命であり至上の使命であるにをいがけ・おたすけに勇んで励む毎日であらねばならない。

一、教区長および寮長の指示に従う。

一、布教の家の一日は朝づとめ（朝のお掃除）から始まる。定め時刻には起床。夕づとめも、おたすけ先の都合以外、必ずつとめる。

一、寮祭などを除き、毎日晴雨にかかわらず布教に尽くす。

一、服装は、布教師にふさわしく清潔で礼儀正しい姿を心がける。

一、朝づとめ前、夕づとめ後のひのきしんは、勇んでさせていただく。

一、おちば帰りおよび上級教会や所属教会への参拝は、参拝者、別席者、修養科生を連れてのみ行えるものとする。原則としてそれ以外の事由では布教地を離れることなく、布教に専心する。

一、生活費は一人月六、〇〇〇円とする。

一、食事は原則として朝夕の二回とし、自炊する。

一、毎週、所定の様式により週間状況を布教一課へ報告する。

※右記の規則を守らない場合は、退寮を命ずることもある。

# 北海道寮

## 男子 5 名



▲寮の紹介ページ  
紹介ビデオも視聴できます



布教の家北海道寮は、布教が苦手だと思う方、戸別訪問は一人では自信が無いというような方をお待ちしております。

「一度は布教の家に」と声を掛けていただきながら、いろいろな理由で断ってしまった方、自信が無く諦めてしまった方こそ入寮してください。

北海道教区布教部主催の、教会本部から講師を招いての教理勉強会を通して、おふでさきや元の理の勉強もさせていただきます。また、団体生活の中から学ぶことや、多くの会長さんやようぼくの方から学ぶこともたくさんあります。

試される大地・北海道にて、布教の実践と教理の習得とを共に勇んでつとめましょう。

# 青 森 寮

## 男子 5 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



「青森は布教がしやすい。戸別訪問をしても、むげに断られることはめったにない」と、これはある卒業生の言葉です。

昨年、寮の体制が一新され、寮長以下約20名の育成員が寮生のお世話取りにあたります。よりきめ細やかな指導ができるよう女性の育成員を増員しました。

また、近年休寮が続いていますが、その中、寮OBが中心となつて布教する有志の会「青森教区・おやさまのお伴」が地道に活動しています。お互いに刺激し合い布教意欲を高め合うことにもなるものと期待しています。

さらに、各支部に置かれている運営委員が担当し、年に数回、泊りがけまたは日帰り出張布教も実施されます。都市部のみならず、農村、漁村など県内いたるところに神名を流し、教区内のようばく・信者に勇

みを届けるという大きな役割も果たしています。

三方を海に囲まれ四季がはっきりして、風光明媚で人情味豊かな青森ですが、冬は一変、白一色に。寒さ厳しく雪深い環境を考えれば、決して布教がしやすいとは言えません。しかし、寒くなればなるほど、雪が降れば降るほど、厳寒の中ご苦労くだされた教祖を偲ばせていただくことができます。しかも、おちばから遠い青森からは、なかなかおちば帰りができません。だからこそ、親神様、教祖に働いてもらうしかないと感じます。おちばに帰りたいけど帰れない。この切ない思いをぜひ味わってください。そうすれば、教祖をより身近に感じることができるようではないでしょうか。

さあ、あなたもこの青森の地で、教祖のお供をさせていただきますか。

# 東京寮

## 男子10名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



開設以来70年を数え、今年もここ東京で布教を志す情熱を持った若者が入寮し、今も毎朝多くの人が行き交う駅前でよろづよ八首をつとめ、路傍講演と清掃ひのきしんで、一日の布教活動をスタートします。

東京寮では「歩こう・汗をかこう・恥をかこう」を合言葉に、地道にコツコツおたすけ先を求めて歩きます。また帰寮した後も、夜の清掃ひのきしんやインターネットの活用など、さまざまなアプローチを使ったにをいがけにも積極的に取り組んでいます。

日本の首都東京は人口1千400万人を超え、日本の政治・経済・文化の中心であり、国内外から大きな注目を浴びている世界有数の都市です。さまざまな地方の出身者のみならず、世界中の人々が集まるこの東京で、

一、元のをやの存在とその御守護によつて生かされているという、いのちの真実

一、陽気ぐらしこそが人生の目的であること

一、「人をたすけて我が身たすかる」このことを堂々と広く人々にお伝えし、ようぼくたる使命感をもって布教に取り組んでいます。

核家族化が進み、少子高齢化が大きな社会問題となる中、孤独で悩む人々や希薄な人間関係から、心の絆を求めている方が大勢おられます。そうした中でいかに心の扉を開き、信頼関係を築き、真実のをやの御心を伝えていくか。心悩める人々に、教祖の親心を何としても届けたい。それが我ら東京寮なのです！  
「世界たすけ」を志すあらきとうりようは、さあ！ 来たれ東京寮に！

# 埼玉寮

## 男子6名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



埼玉寮の指導方針は、寮の一年を単なる布教経験で終わることではありません。

この「布教の家」は、卒業後も教会の後継者またはそれぞれの立場においても「成っても成らないでも」、たった一人でも、教祖の「たすけ一条」の御旗を掲げてどんな日もコッコツと丁寧な心で歩き続けられる「生涯布教師」を目指すことを目標とできる人材を育成する場であります。また寮生活においては、おたすけ人の精神、「教祖のひながた」通りに、常に感謝の心を忘れることなく、どんな時も「喜び」と寮生同士が「たすけ心」を以って一手一つにつとめられる一年になるように指導にあたっています。

布教方針は、  
一、なぜ布教するのか、「いんねんの自覚」と「ようばくの使命」について日々のをいがけ・お

たすけを通してしっかりとねりあい、考える。

二、にをいがけを通して丁寧な「おさづけ」の取り次ぎと初参拝者の御守護を目標にする。

日々は教区長、寮長を中心に随時信仰相談に応じています。

また現在布教第一線で頑張っている先輩育成員（現教会長）が月に数回宿泊して、布教する上での悩みを聞き抜き、共に切磋琢磨して布教へのエネルギーを高めています。

令和6年度に寮舎が新しくなりました。一日の終わりを気持ちよく過ごせる環境が整えられています。

生涯布教のできる、また布教を通して人の心を丹精できる、そんなおたすけ人を目指している若者諸君、ぜひ埼玉寮へお越しください。

おたすけの喜びを、埼玉から世界へ！



# 千葉寮

## 女子8名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



千葉寮は昭和63年に「千葉管内に布教の渦を巻き起こそう」との思いから、関東初の女子寮として開設されました。布教の渦を巻き起こすとは、寮生のひたむきな布教活動の姿を他の教友にも映すという意味です。単に一年間の布教体験、実績を積み場所ではなく、布教の家設立の主旨に沿い、常におちばを心に置き、御存命の教祖のお働きを戴いてにをいがけ・おたすけに歩く、またにをいがけ・おたすけを通して親神様の御守護、御存命の教祖の親心を体感し、見せられることに自らのいんねんを自覚しながら確固たる信仰信念を培い、卒業後にどのような立場になっても一布教師として通れるように育てる。これが千葉寮の基本方針

です。

現在千葉寮では、それぞれ違った経緯で入寮した寮生が、お互いに布教師としての意識を忘れずに持ちながら、寮での共同生活、外での布教活動ができる環境を目指しています。そのために、寮長ほか育成員として、布教の家OBまたOGを多数揃え、一年を通してそれぞれに応じた現場での布教の指導を行い、またねりあいや修練でのお話によってさらに一歩前に成人できるよう、寮生を自分の家族と同じように思い、丹精を續けています。

「やはり千葉を布教地を選んだのは教祖のお導きだった」、そう思える一年を通じてみませんか。

# 愛知寮

## 男子12名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



愛知寮は、昭和26年に全国で一番最初に開設された布教の家です。その歴史と伝統を大切に引き継いで来ましたが、三代真柱様が愛知寮にお越しくださった時に賜った「教祖のお供をして日々コツコツ歩き回り、愛知から世界へ布教の渦を巻き起こそう。」とのお言葉を忘れることなく歩き続け、本年度75年目を迎え、卒業生1千139人の布教師が巣立って行きました。

現在、愛知寮は寮長、副寮長、育成員、カウンセラー合わせて14名の体制で指導にあたっています。布教経験豊富な布教の家卒業生たちが、定期的な、にをいがけ、ねりあいを積極的に行い、おたすけ相談や寮生活の相談などをしっかり受け止め、寮生が勇んで教祖のお供をして歩き続けられるように、サポート体制を整えています。

また、布教経験豊富な外部講師を招いての、体験談、談し合い、教理勉強会など、学ぶ機会にも恵まれています。

にをいがけにルールはありません！

ただ教祖を信じ、教祖のお供をし、「教祖、私といんねんある方はこの方ですか？」と尋ね続けながら歩くところに、必ず教祖がおたすけ先を与えてくださいます。

道の後継者育成が急務の中、愛知寮がその一助となりますよう、育成スタッフ一同しっかりと次代につなげていきたいと存じます。

布教を志すよう多くの皆様。教祖140年祭の年はたすけの旬！ たすかる旬！ ぜひ布教師の一步を踏み出してください。入寮を心よりお待ちしております。

# 石川 寮

## 男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



石川寮では「一人一人の自立と成人」を目指した指導を中心に、親神様、教祖と自分の直結した信仰心を養い育ててもらえるよう、丹精の上に取り組んでいます。「苦労は喜びの種」と布教道中の体験の中から見えてくる気づきや学びと、大きな喜びや感動、そしておたすけを通して自ら磨かれていく心の成人を感得してもらおうべく、経験豊富な育成員一同が、真実を持って寮生をサポートしています。

単独布教より教会を設立し、現在も現役布教師としてご活躍されている本部派遣委員によるお仕込みと、各個別面談も毎月別の日に行うことによって、より細やかな指導体制も整えています。

さらには、国内はもちろんですが、

海外布教にも力を入れていらっしゃる先生は、現役の単独布教師をはじめ、卒業後も純粋に布教を志し、石川の地で布教に専従しているOBも真実を持って育成に携わり、お世話させていただいています。

また、教区管内の主事先生、諸先生方にも全面的にご関与、ご協力を頂き、石川教区挙げての万全な受け入れで寮生をお待ちしています。

この石川寮で、教祖のご苦労を見つめながら、ひながたの道をたどり、地道に真剣に歩む日々は、きつと生涯に亘ってのかけがえのない信念と自信という宝となることでしょう。布教を通し、自らを磨き成長する生き甲斐と信仰の喜びを共に分かち合える日を楽しみに、熱意ある皆様の入寮を心よりお待ちしております。

# 大 阪 寮

## 男子 8 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



大阪寮は、平成元年4月、教務支庁内の旧「天理助産所」の建物を改装して創設されました。先人たちの輝かしい単独布教の足跡と熱い思いが込められ、人間誕生の場所が、布教師を生み出す所に生まれ変わり開設されたのです。

平成12年には現在の新しい寮舎が落成し、これまで300名を超える布教師を送り出しました。おちばに近いという大阪寮の地の利を活かし、にをいがけさせていただいた人々をおちばにお連れする機会は数多く与えていただけます。

大阪寮では、寮長含め15名の育成委員が寮生の指導に当たり、いつで

も身近に、寮生からいろいろな相談に乗れる態勢を整えています。また、単なる1年間の布教経験に終わることなく、生涯求道者たる信念の育成を目指しています。卒業後に残る単独布教中の先輩たちも多く、そんな先輩たちからの話も良い刺激になります。

さらに、専修科の夏季布教実修や、一日入寮の有志による布教実習の受け入れなど、布教を志す若人たちの交流も盛んに行い、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会としていきます。

大阪寮は万全の受け入れ態勢で、皆様のお越しをお待ちしています。

# 和歌山寮

## 男子 4 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



和歌山は、おちばに近く、早くから布教が盛んに展開され、現在3カ所の大教会と、約40カ所の分教会が点在している、紀州徳川家が治めた和歌山城の城下町です。気候は温暖で、人情は穏やかなこともあり、県民はお道への理解が高く、布教しやすい土地柄です。

和歌山寮は現在、10名ほどの熱心な育成員によって、一年間の布教と寮生活の両面でサポートしています。寮生の自主性を重んじ、寮生の案でイベントや団参を企画しています。寮生には、一人ずつ担当者を付け、相談窓口として、一緒に考え、導き、時には行動を共にします。寮の生活環境は充実していて、疲れた身体を癒すことができます。

また、教区内の熱心な布教師の集まりである「わたちの会」に、月2回参加し、布教やねりあいを通して刺激をもらっています。

卒寮した後も、にをいの掛かった方をそのままにしないことも卒寮後の大切な角目であることを思う時、何と言ってもありがたいのは、おちばから近く、修理や丹精を継続しやすい、という地域性ではないかと思っています。事実、卒寮後も現地を訪れるOBは数多く、中には教会設立を目指して、布教に専念している布教師もいます。

お道に熱意を持っておられる方ももちろん、苦手意識があつて、一歩が踏み出せない方や、初心者でも大歓迎です。私たちと共に、陽気ぐらし世界への扉をたたきましょう。



# 兵 庫 寮

## 女子 9 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



兵庫寮は、教祖 70 年祭前の昭和 29 年に開設され、同 31 年より女子寮として現在に至っています。以来、布教の家を巣立った者の中から教会を設立して教会長になっている人や各地で活躍している教会長夫人が数多くいます。

寮生は 3 月 30 日に入寮して以来、「御存命の教祖のお供」を合言葉に、ただただひたすらに歩きます。まずは種まきに重点をおき件数を定めての戸別訪問に専念、7 月末～8 月にかけての「こともおちばがえり団参」、また後半には、マイクロバスでの毎月の別席団参に取り組みます。寮生に対する毎月の丹精は教区長夫妻による講話や女鳴り物の練習を

はじめ、寮長・育成員とのねりあいを適宜行い、また際立って布教の活発な教会へ出向いての熱ある実修とねりあいで寮生の布教意欲は高まります。

さらには寮長と副寮長、育成員による布教実修を状況に応じて実施し、きめ細やかな相談と育成に当たっています。

1 年間兵庫寮で学び、神戸の街を布教する日々が、毎年大きな成果をお見せいただくこともさることながら、汗と涙を流してこの坂道を上り下りすることにより、それぞれが生涯お道を歩む上の礎を築かれることを確信いたします。

# 岡山寮

## 男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



岡山寮のスローガンは「布教は夢とロマンだ！」です。

当寮は、とりわけ「戸別訪問とおさづけの取り次ぎ」また「おちば帰り」に力点を置いています。

ひたすら心を低くして戸別訪問を続けることで、さまざまな境遇の方との出会いを御守護いただき、どうすればこの方にたすかしてもらえるか、まさにおたすけ人となっています。

地道な丹精を重ねて御教えを伝え、先祖がお待ちくださるおちばへお連れした時、また鮮やかな御守護を目の当たりにした時の感激は、何ものにも代え難く、そしてその先には、その方が「人だすけ」に目覚めるという大きな「夢とロマン」があるのです。

今日も寮生は、神殿前で、その日の目標を大声で唱和し、勢いよく街へ飛び出していきました。笑われもしられる日々は誠に大変ではありますが、励まし合って乗り越えていきます。

スタッフは、岡山寮派遣委員として、数十人の住込人と共に毎日布教に歩く教会長夫妻、そして常時育成にあたる係員も、二十数年の布教を経てこの令和の時代に教会を設立した人、また仕事に就きながら布教に励む人など幅広く、あらゆる相談に対応します。

寮生・OB・スタッフ、熱い思いを高め合い、山あり谷ありの布教の日々を、心から楽しめる布教師となりましょう！





# 寮 島 広

## 男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます

布教の家広島寮は、昭和28年に設立されました。今から80年前、人類史上初めて広島に原爆が投下され、広島街は焼け野原となりました。「今後75年間は草木も生えぬ」と言われた混沌とした世上の中、早くも道の布教師たちは、橋の下などをねぐらにして、人だすけに奔走していました。そうした状況を目の当たりにした教区内の方々から「せめて布教師たちに夜露をしのげる場所を」との声が上がり、布教の家広島寮は誕生しました。

そんな布教師たちの熱い思いは代々の寮生に受け継がれ、今日、設立から70年以上を経て、歴代の卒業生は300名を超えます。

広島寮では、「とにかく歩く」を合言葉に、ひたすら親神様、教祖が

お導きくださる多くの方々のご縁を求めて、にをいがけに歩きます。

寮生への育成体制としては、月に一度、教区長はじめ主事や支部長先生方より布教の糧となる講話を頂きます。また、寮長や育成員とも随時ねりあいを重ね、きめ細やかな丹精を心掛けています。さらに、本部派遣委員による布教相談や教理勉強会を行い、信仰を一層深める機会も設けています。その他、月に一度ほど、教区内の各支部へ足を運び、教区青年会とも連携を取って、県内各地へ神名を流す実修も行っています。

教祖140年祭の年、教祖にお喜びいただける布教師となるべく、共に教祖のひながたの道を辿らせていただきます。皆様の入寮を心よりお待ちしております。

# 愛 媛 寮

## 女子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



愛媛寮は昭和46年に女子寮として開設され、以来約50年の間に150人余が卒業されました。

寮（教務支庁）のそばには道後温泉があり、寮生たちは毎朝、外国人観光客も多いこの温泉街周辺で神名流しとゴミ拾いを実施し、日中は市内各地を、戸別訪問を中心ににをいがけに歩きます。

寮の育成体制は、教区長をはじめ布教の家担当主事（寮長）と、育成委員で構成されています。

また、布教経験豊富な教区・布教部の先生方が、親身になって布教活動をサポートしてくださるのも、寮生にとっては大きな安心感となります。

日々のをいがけ・おたすけの実践と、先生方の体験を通したお仕込みによって信仰心を養い、おたすけ

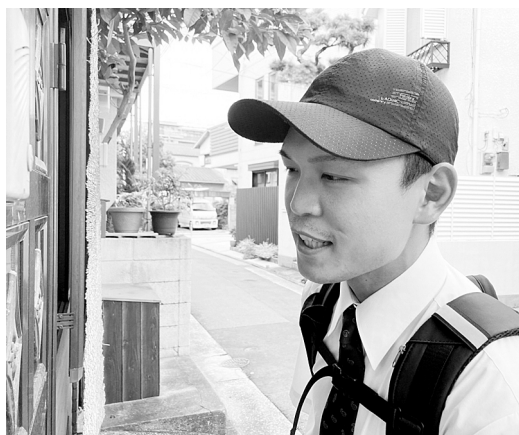
のできるようほくへと成人させていただきます。

寮長はいつも寮生に「市内の一軒一軒のたすかりのために、親神様に祈って歩く心でをいがけに回らせていただきます」と話します。

一人でも多くの人のたすかりを願ひ、教祖のお供をさせていただき、布教力を培いながら、いずれ全国各地で道の台としても活躍できるように歩ませていただきます。

家庭的な温かさ、明るくのびのびとしたスタイルが愛媛寮の特徴であり、信仰に寛容的で、人当たりの穏やかな地域なので、布教経験ゼロの人でも、一から着実に布教力を身に付けていくことができます。

布教人生の第一歩を、夏目漱石の『坊ちゃん』ゆかりの四国松山の地で始めませんか。



# 福岡寮

## 男子6名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます

福岡寮は、昭和58年開設された九州唯一の布教の家です。

寮長・副寮長、布教熱心な教会長、布教の家OBの布教師で構成された育成員の計13名で、サポート体制を整えています。さらに教区の皆様が心を寄せてくださいます。また、布教経験の無い方でも安心して歩けるよう「にをいがけドリル」を実施します。

寮生の一日は、神殿掃除に始まり、その後、庁舎内の清掃、朝づとめ。8時40分からお願いづとめ、おかきさげの拝読。そして、庁舎前の「黒門」バス停にて、よろづよ八首のてをどり、元の理の拝読、路傍講演を行います。そして勇み立つ心で、それぞれの目的地に向かいます。昼食抜きで終日にをいがけに歩き、帰寮後は神名流しに歩き、夕づとめに続いてその日の反省会をして一日を終

えます。

寮祭は、先輩寮生がにをいを掛けた人、所属教会が遠方にある方々が参拝され、毎月20名以上にぎやかに勤めます。おつとめ後、祭主を務めた寮生の感話と育成員の講話があり、反省会にて、一カ月の足跡を振り返り、今後の進め方についてねらいがあります。

福岡寮はおちばから遠く離れていますが、一年間毎月初席者の御守護を頂戴しおちばに帰った先輩寮生や、この地で布教への情熱を育み、にをいがけ・おたすけに励む布教師を多く輩出しています。

「御存命の教祖のお供」を合言葉に、この福岡の地で辛抱強くコツコツと布教に歩き、教祖にお喜びいただける「布教師」となろうではありませんか！

# 布教の家所在地一覧

| 寮 名 | 設 置 年 | 所 在 地                            | 電 話 番 号      |
|-----|-------|----------------------------------|--------------|
| 北海道 | 昭和49年 | 〒064-0808<br>札幌市中央区南八条西11丁目1番1号  | 011-561-1148 |
| 青 森 | 平成4年  | 〒038-0014<br>青森市西滝2丁目12番1号       | 017-781-0050 |
| 東 京 | 昭和28年 | 〒170-0003<br>豊島区駒込7丁目1番4号        | 03-3917-0247 |
| 埼 玉 | 昭和59年 | 〒331-0814<br>さいたま市北区東大成町1丁目654番地 | 048-663-0444 |
| 愛 知 | 昭和26年 | 〒466-0064<br>名古屋市中昭和区鶴舞3丁目15番18号 | 052-741-6363 |
| 石 川 | 昭和61年 | 〒920-0867<br>金沢市長土堀1丁目18番22号     | 076-222-0720 |
| 大 阪 | 平成元年  | 〒543-0036<br>大阪市天王寺区小宮町9番18号     | 06-6771-0012 |
| 和歌山 | 平成6年  | 〒640-8137<br>和歌山市吹上3丁目2番46号      | 073-436-4445 |
| 岡 山 | 平成7年  | 〒700-0807<br>岡山市北区南方1丁目1番23号     | 086-222-5881 |
| 広 島 | 昭和28年 | 〒730-0004<br>広島市中区東白島町12番11号     | 082-221-1144 |
| 徳 島 | 昭和60年 | 〒770-0908<br>徳島市眉山町大滝山8番地        | 088-654-3877 |
| 福 岡 | 昭和58年 | 〒810-0062<br>福岡市中央区荒戸3丁目1番9号     | 092-741-3857 |
| 千 葉 | 昭和63年 | 〒263-0033<br>千葉市稲毛区稲丘町5番15号      | 043-241-3191 |
| 兵 庫 | 昭和29年 | 〒657-0804<br>神戸市灘区城の下通2丁目8番1号    | 078-861-3392 |
| 愛 媛 | 昭和46年 | 〒790-0852<br>松山市石手5丁目8番27号       | 089-921-7372 |

※布教の家はすべて教務支庁の敷地内に設置されています。

# 立教189年度 布教の家 入寮要項

## ●期 間

3月29日「入寮研修会」から、翌年3月末開催予定「卒寮の集い」まで

## ●資 格

①所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人

▽出願時点で教人になっていなくとも出願はできますが、3月29日の「入寮研修会」までに教人登録または登録の手続きが完了していない場合は、入寮できません。

②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことが可能であること

▽おちばの修養科とは異なります。「布教の家へ入って身上のご守護を頂こう」というような理由での入寮はご遠慮ください。

③配偶者の有無は問わないが、単身での入寮に限る

④原則として、一カ所の布教の家には一直属から一人のみ入寮可とします。

## ●携 行 品

寝具、おつとめ衣、ハッピーの帯（男子）、衣類、洗面具、筆記具、雨具、そのほか各自が日常で使用するもの

## ●貸 与 品

ハッピー（寮名入り）、名札

## ●諸 注 意

①寮費（生活費）は月6千円とし、自炊する。

寮費は、毎月26日までに、翌々月分を保護者が布教一課に納入すること

▽4月分と5月分は、入寮研修会の受付にて本人に納めていただきます。

▽一括納入も可能です。

②寮生は1年間、にをいがけ・おたすけに専念し、帰参者・別席者・修養科生を連れてのおちば帰りおよび上級教会・所属教会参拝以外は、原則として布教地を離れぬこと。教会の祭典・行事、私事についても原則として認めない

③中途入寮は認めない

## ● 願 書

① 入寮願書 1通（所定用紙）

② 経歴書 1通（所定用紙）

③ 健康調査票 1通（所定用紙）

④ 小論文「入寮の動機および心構え」

▽ 200字詰め原稿用紙4～5枚程度。市販の用紙も可。

⑤ 写真2枚

▽ 半年以内に撮影したもの（免許証用のサイズ）。

▽ 布教中に携帯する身分証に使用しますので、身だしなみを整えて撮影した写真を用意してください。

▽ 2枚のうち1枚は経歴書に貼付してください。

※ 願書は布教一課へ取りにお越しください（配布は

11月25日から）。また布教の家がある教区（教務

支庁）でも配布しています。

※ 希望の寮は居住している教区の寮でも構いません。

## ● 願書受付

1月25日午前9時から2月25日午後1時まで。布

教一課へご持参ください。

※ 郵送での提出はできません。

※ 各寮（教務支庁）では受付できません。

## ● 入寮者決定

2月末に面接のうえ決定し、3月中旬ごろに本人

・保護者・所属教会長へ通知します。

※ 面接は保護者同伴で行います。

※ 希望の寮が定員を超える場合は、原則として先着順で入寮者を決定します。

## ● 入寮研修会

入寮許可者に対し、3月29日～30日の2日間で、

おそばにて「入寮研修会」を開催し、終了後その

まま布教地へ出発します。

※ 各寮までの旅費と、4月分・5月分の寮費を、当

日持参していただきます。

◇ 詳細は左記へお問い合わせください。

天理教布教部 布教一課

おやさとやかた南右第二棟2階

TEL 0743-63-2243





●編集・発行

布教部布教一課

TEL 0743 - 63 - 2243

●発行日

立教188年 9 月26日

▼「布教の家」ホームページ





## 願書配布

11月25日 開始

## 願書受付

1月25日～2月25日

午前9時 午後1時